



・明るく・温かく・明日に向かって

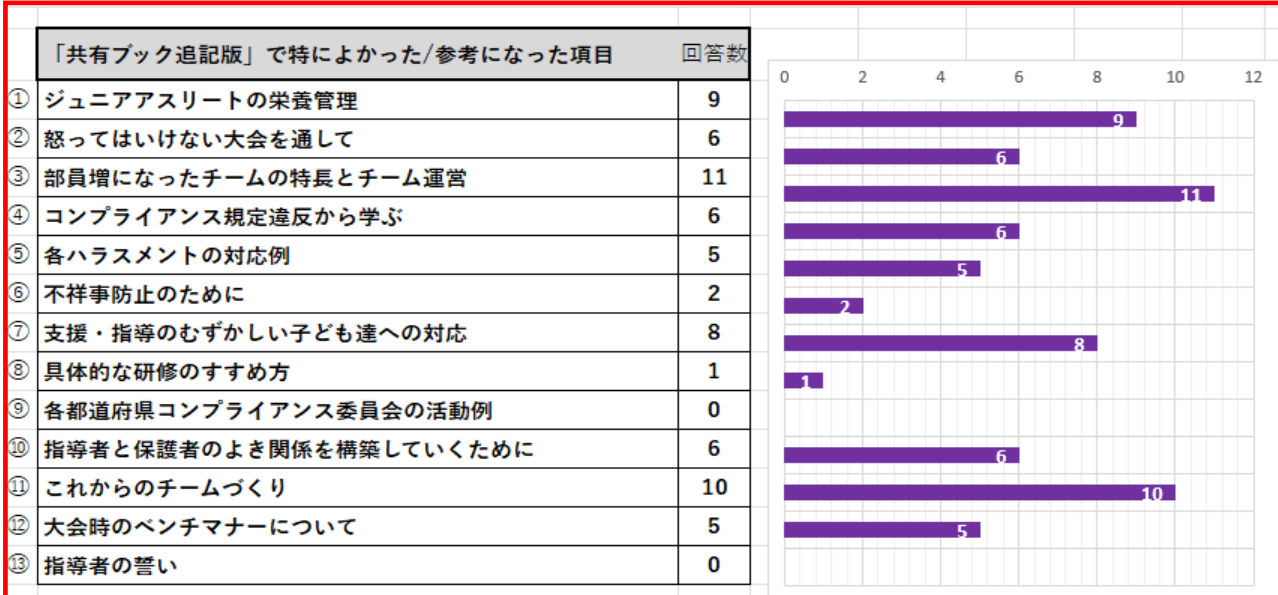
K J V A

高知県小学生バレーボール連盟
広報委員会通信

No, 23

令和6年7月16日

R6 第2回 コンプライアンス研修会 アンケート結果から



共有ブック追記版を見た感想		
・気になっていた部分が書かれていて良かった。	・「ダメ」の線引きが分からない。	・カテゴリ別の指導のやり方や現在の指導の在り方が分かった。
・具体的な記載がされていた良かった、必要な情報が網羅されている、今後参考にしたい。		・指導の難しさ、発言の難しさを再確認した。
・支援/指導の難しい子ども達への対応について再認識できた、勉強になった。		・時代の流れだけでは済まされない事等が多くなっていると思った。
・コンプライアンス以外の面でも参考になる内容が書かれていて色々な場面で活用できると思った。		・指導者へのアドバイス方法等をもっと具体的に教えてほしい。
・ハラスメントへの対応方法、事案にならないための予防方法が分かりやすく記載されているのが良いと思った。		
・「指導者を守る」とあるが、守れるのか？連盟にその覚悟があるのか？		
・子ども達の笑顔と歓声がバレーボールの魅力や象徴し競技を通じた成長と絆の重要性を感じた。		
・強くても部員が少なかった頃と/レベルは下がったけど部員が増えた現在のチーム状況を比較すると「辞めたいけど辞める事ができない」から「楽しいから辞めたくない」と思ってくれる子ども達が増えて、指導者が指導の仕方や雰囲気作りを学ぶ事が必要だと実感できた。		
・接し方について自分が気を付けている部分に置いて、子どもの内面への影響が確認できた。		

共有ブックの各項目の中では、これからのジュニアバレーボールクラブの在り方についての関心が高かったように思います。指導者の人間性向上が周りから注視されている、そして教育者としての自覚が試されている、そのように思えます。下品な行動や乱暴な言動については、忌避される時代になったとはっきり言えると思います。

また、指導者が守られるためには、コンプライアンス規定を順守することです。保護者の言動にも、問題点がある場合も多くあります。それには組織として毅然とした態度で向かいます。

保護者用リーフレットに取り入れてほしい内容

- ・指導者側の想い等が伝わるような内容があれば良いと思う。
- ・「保護者の役割って何ですか」とよく聞かれるので、スポ少においての保護者の役割が伝わるような内容を入れていただけると良いと思う。
- ・支援が必要な子ども達への対応や、チームへの協力体制。
- ・モンスター保護者に対する対応例や指導者を守るための内容があれば良いと思う。
- ・子ども達の正しい言葉遣い（上級生への呼び捨て等）の良し悪し。
- ・保護者が「自分の子どもだけ見ている」という例がチームとしては一番しんどくなるので、その対応等が例示されたら良いと思う。
- ・保護者の節度、挨拶、マナー（応援マナー含む）等/指導者向けの資料は多いが保護者向けが少ない。
- ・子どもの活動に①関わる保護者/②関われない保護者/③関わらない保護者のそれぞれの考え方に対する円満なチーム運営方法。
- ・チーム練習中の個人指導のタイミングと頻度についての説明。

県小連コンプライアンス委員会への今後の活動について

- ・説明会等の終了時間を守ってほしい、新しい情報がほしい。
- ・コンプラ事案(検討案件含む)が発生した時の対応が遅い(緩い)と思う。
- ・指導者の発言に対する報告をしたにもかかわらず、コンプラ事案の発生を止められてなかったように思う。
- ・常に意識し合う事が大切だと思うので、定期的な研修会をお願いしたい。
- ・子ども/保護者/指導者が同じ気持ちでバレーに取り組めるように年間を通して2~3回は講習会をしてもらいたい。
- ・本当に指導者を守れているのか?と疑問に思う事がある。コンプラも大切だが保護者の「言ったもの勝ち」や「言葉の切り取り」等への対応をお願いしたい。
- ・これからも継続してほしいです。 ・KJVA便りを楽しみにしています。
- ・別件になるが、ルールブックを充実させてほしい。 ・いつもありがとうございます、これからも頑張ってください。

保護者が、指導者に匿名メールで批判や要求を伝える、という例が上がってきています。また、選手の起用方法での指導者と保護者のトラブルもありました。一昔前と比較すると、指導者受難の時代になっているのは間違いありません。

保護者と指導者の意思疎通、社会常識を踏まえたバランス感覚や折り合いが大変大事です。

だれのためのバレーボールなのか、そう考えると想いは同じ。子どものためです。それが、ややもすると、指導者のプライドのため、保護者自身の夢のため、の方が優先されてしまっていないか。子どもも大人たちも、もし少し道を外れたなら、すぐに周りで注意し合って軌道修正し、前に進む、そういうチーム運営を目指しましょう。ただし、道を外れたことを許容してくれる時代は、もう遠くなりつつあります。上記にはコンプライアンスへの対応が緩いという声もあります。

指導者にこそ、自律・自立が必要です。もうここが最終通告です。

怒声・罵声等はやめましょう。グレーととられかねない発言は、やめましょう。

★超一流の選手を育てた親たちには、以下の共通点があるということです。

『頑ごなしに怒らない』

『子どもの考えを決して否定しない』

『足し算』よりも『引き算』を意識している。』

『子どもがやることに対して、いかに無視することが出来るかが大事』

自分の考えを否定され続けると、大人でもそれはやがて、強烈なコンプレックスへと変わっていきます。子どもたちに対して、ものすごく興味、関心を持って、それをちゃんと伝えつつ、なるべく口を挟まない、実践はなかなかむずかしいかもしれませんが、心がけてみると光が見えてくるような気がします。

「天才を作る親たちのルール」の著者 スポーツライター 吉井妙子」